

### 3 一～五類、新型インフルエンザ等感染症全数把握感染症

#### (1) 一類感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱は報告がなかった。

#### (2) 二類感染症

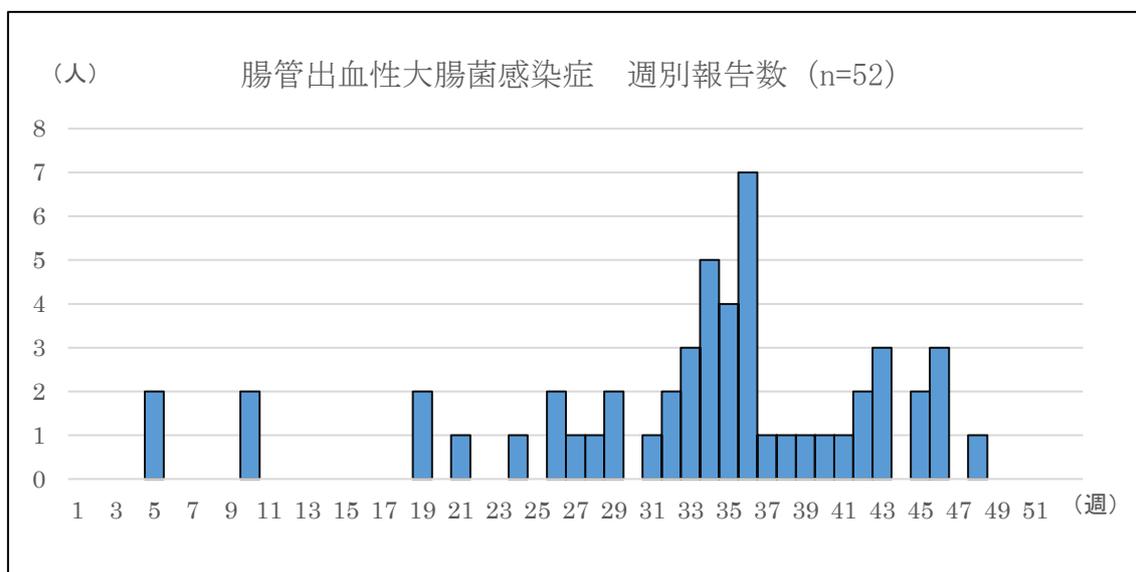
急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は報告がなかった。

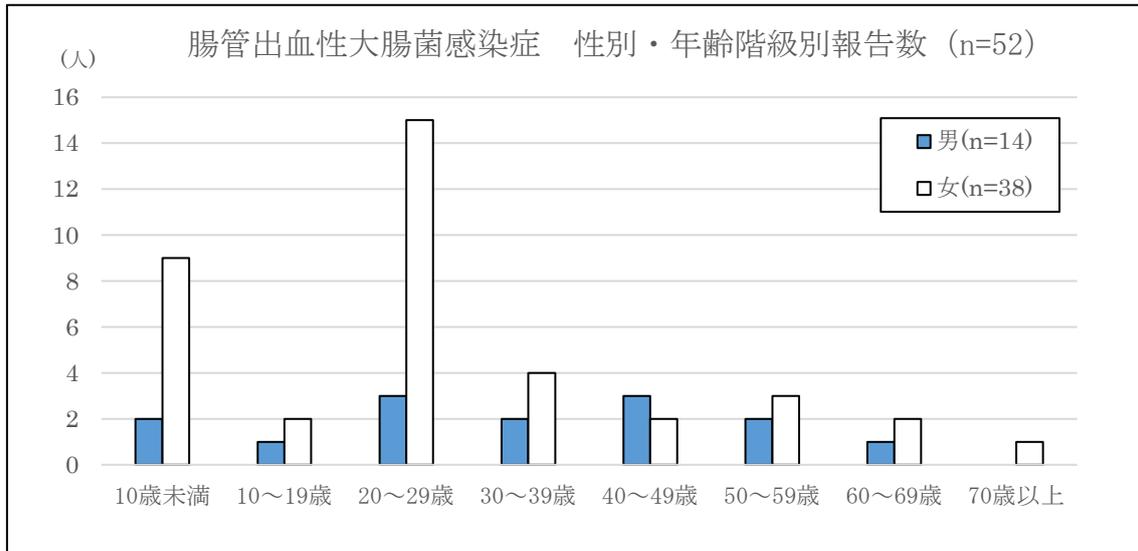
#### (3) 三類感染症

##### ア 腸管出血性大腸菌感染症

2021年は52人の報告があった。症状別では患者36人、無症状病原体保有者16人であった。性別は男性14人、女性38人で、年齢階級別では10歳未満11人（うち5歳未満5人）、10～19歳3人、20～29歳18人、30～39歳6人、40～49歳5人、50～59歳5人、60～69歳3人、70歳以上1人であった。推定感染地は国内が48人、不明4人であった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断された者は1人で年齢階級別は10～19歳であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数 (n=52)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
026	VT1	3	0157	VT1	1
086a	VT2	1		VT2	12
091	VT1	1		VT1、VT2	23
不明	VT1	1		不明	5
	VT2	5			
血清型		件数	血清型		件数
0157 以外		11	0157		41

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=1)

受理日	性別	年齢階級別	血清型・毒素型	推定感染地
9/28	女	10~19 歳	0157 毒素型不明	国内

### イ その他の疾患

コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスは報告がなかった。

#### (4)四類感染症

##### ア E型肝炎

2021年は3人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別では40～49歳1人、60～69歳1人、80～89歳1人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は経口感染が2名、不明が1名であった。

##### イ A型肝炎

2021年は1人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は20～29歳であった。

推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

##### ウ 日本紅斑熱

2021年は1人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は60～69歳であった。

推定感染地は国内(大阪府)であった。

##### エ マラリア

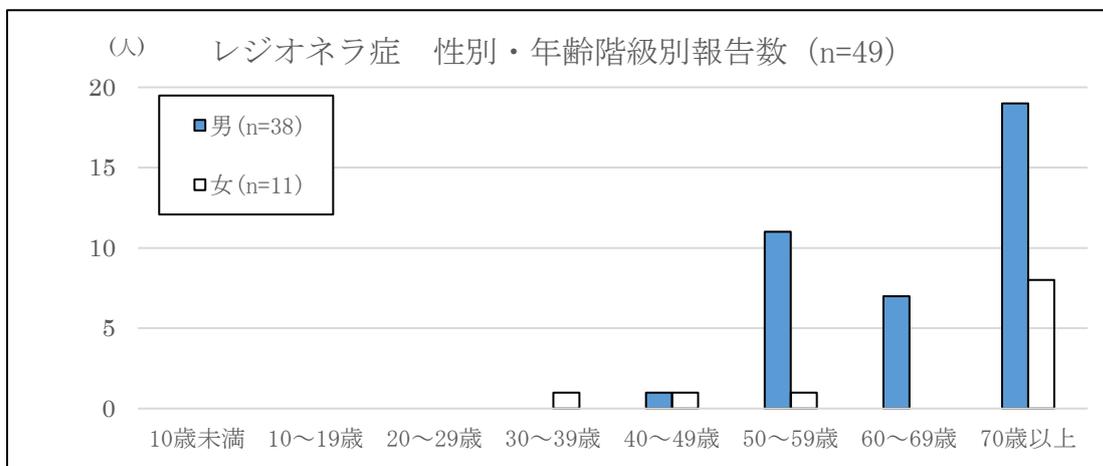
2021年は4人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別では30～39歳2人、40～49歳2人であった。病型は熱帯熱マラリアが3人、四日熱マラリアが1人であった。

推定感染地はナイジェリア連邦共和国、ガーナ共和国が各2人であった。

##### オ レジオネラ症

2021年は49人の報告があった。病型は肺炎型41人、ポンティアック熱型5人、無症状病原体保有者3人であった。性別は男性38人、女性11人、年齢階級別は30～39歳1人、40～49歳2人、50～59歳12人、60～69歳7人、70歳以上27人であった。

推定感染地は国内43人、不明6人であった。推定感染経路は水系感染7人、塵埃感染2人、その他1人、不明39人であった。水系感染のうち、公衆浴場施設(温泉を含む)の利用歴がある者が2人、遊泳場の利用歴がある者はいなかった。



## カ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病源体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

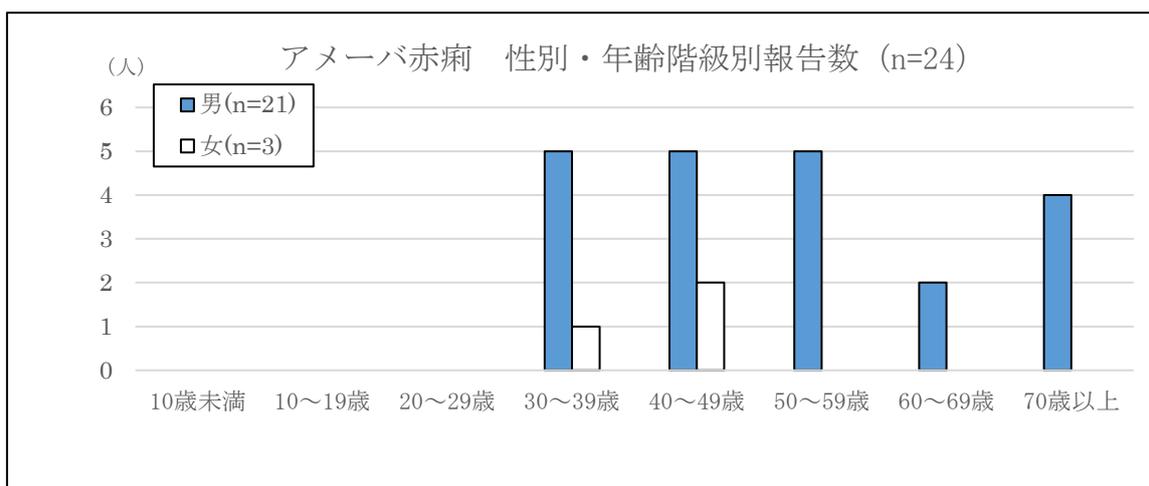
### (5)五類感染症(全数把握対象)

#### ア アメーバ赤痢

2021 年は 24 人の報告があった。すべて腸管アメーバ症であった。性別は男性 21 人、女性 3 人で、年齢階級別では 30～39 歳 6 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 5 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 4 人であった。

推定感染地は国内 19 人、国外 2 人、不明 3 人であり、国内外感染例 2 人の推定感染地域はカンボジア、東南アジアであった。

推定感染経路は、性的接触 9 人 (同性間 2 人、異性間 4 人、性別不明 3 人)、経口感染 2 人、その他 1 人、不明 12 人であった。



### イ ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)

2021年は6人の報告があった。病型はB型肝炎が5人、その他(EBV)が1人であった。性別は男性が5人、女性1人で、年齢階級別では20～29歳2人、30～39歳1人、40～49歳1人、50～59歳2人であった。

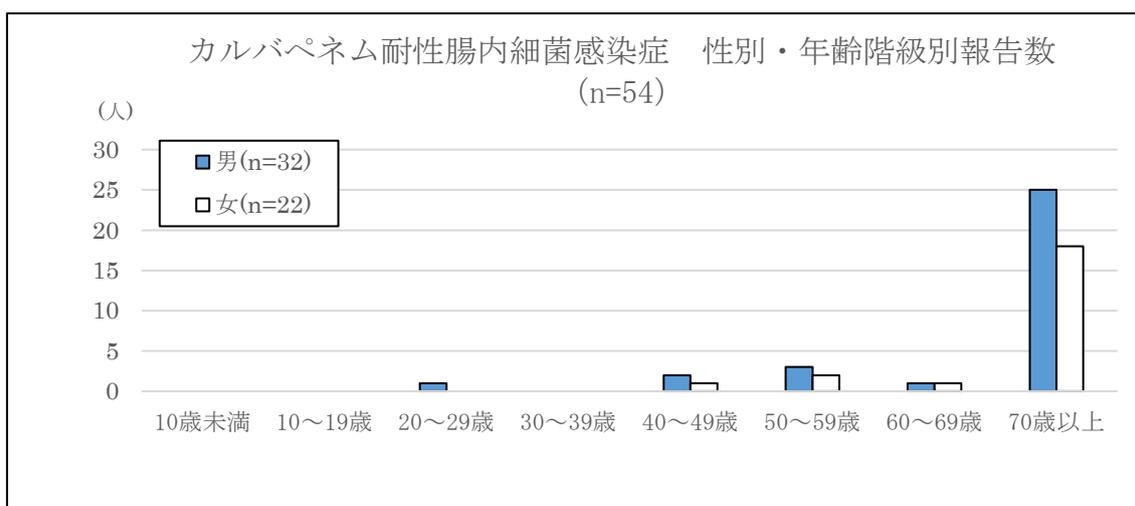
推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は異性間性的接触が3人、同性間性的接触が2人、性的接触(不明)が1人であった。

### ウ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症

2021年は54人の報告があった。性別は男性32人、女性22人で、年齢階級別では20～29歳1人、40～49歳3人、50～59歳5人、60～69歳2人、70歳以上43人であった。

推定感染地は国内53人、不明1人であった。

CPE(カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌)は7件あり、内訳は *Klebsiella pneumoniae* は4件、*Escherichia coli* は2件、*Enterobacter species* は1件であった。



### カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 分離菌種 (n=55) ※

菌種	分離件数 (CPE株数)	菌種	分離件数 (CPE株数)
<i>Enterobacter cloacae</i>	16	<i>Citrobacter freundii</i>	1
<i>Klebsiella aerogenes</i>	14	<i>Cronobacter sakazakii</i>	1
<i>Klebsiella Pneumoniae</i>	10(4)	<i>Enterobacter asburiae</i>	1
<i>Escherichia coli</i>	6(2)	<i>Enterobacter species</i>	1(1)
<i>Serratia marcescens</i>	3	<i>Morganella morganii</i>	1
<i>Citrobacter braakii</i>	1		

※1名から2株(*Escherichia coli*、*Citrobacter freundii*) 検出されている

## エ 急性弛緩性麻痺

2021 年は 1 人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は 10 歳未満であった。  
病源体、推定感染地は不明であった。

## オ 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

2021 年は 1 人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は 20～29 歳であった。  
推定感染地は不明で、病源体は単純ヘルペスウイルスであった。

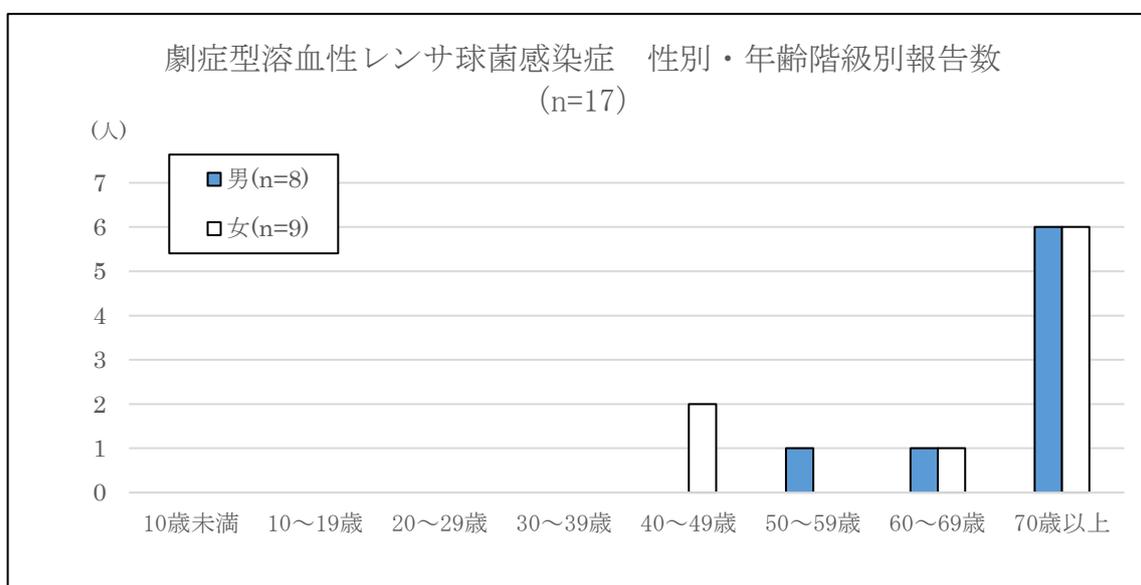
## カ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

2021 年は 2 人の報告があった。病型はすべて古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（疑い）であった。性別はすべて男性で、年齢階級は 60～69 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

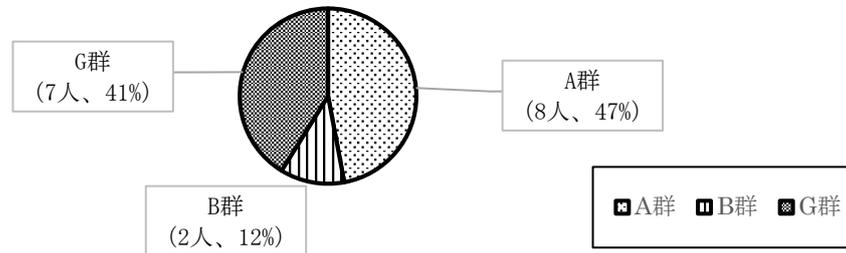
## キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2021 年は 17 人の報告があった。性別は男性 8 人、女性 9 人で、年齢階級別では 40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 12 人であった。

推定感染地は国内 16 人、不明 1 人で、推定感染経路は創傷感染 7 人、飛沫・飛沫核感染 1 人、その他 1 人、不明 8 人であった。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 血清群別割合 (n=17)



### ク 後天性免疫不全症候群

2021年は77人の報告があった。AIDS患者13人、HIV感染者64人（指標疾患以外の有症者13人、無症候性キャリア51人）であった。

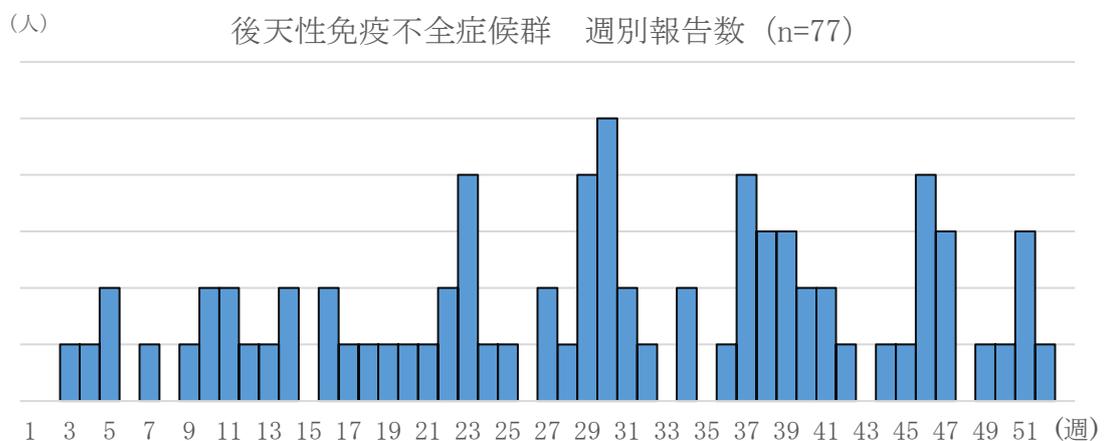
AIDS患者13人の性別は男性12人、女性1人で、年齢階級別では20～29歳4人、40～49歳4人、50～59歳3人、60～69歳1人、70歳以上1人であった。

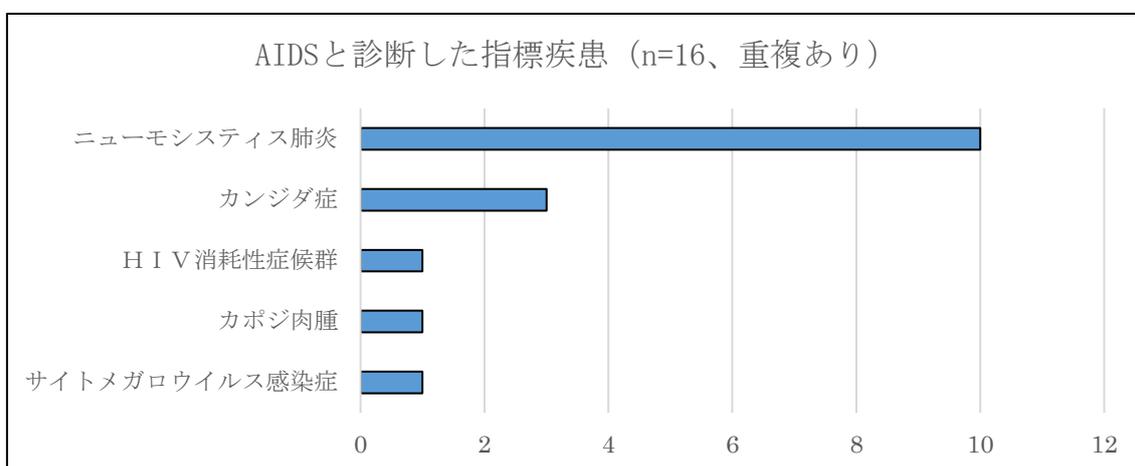
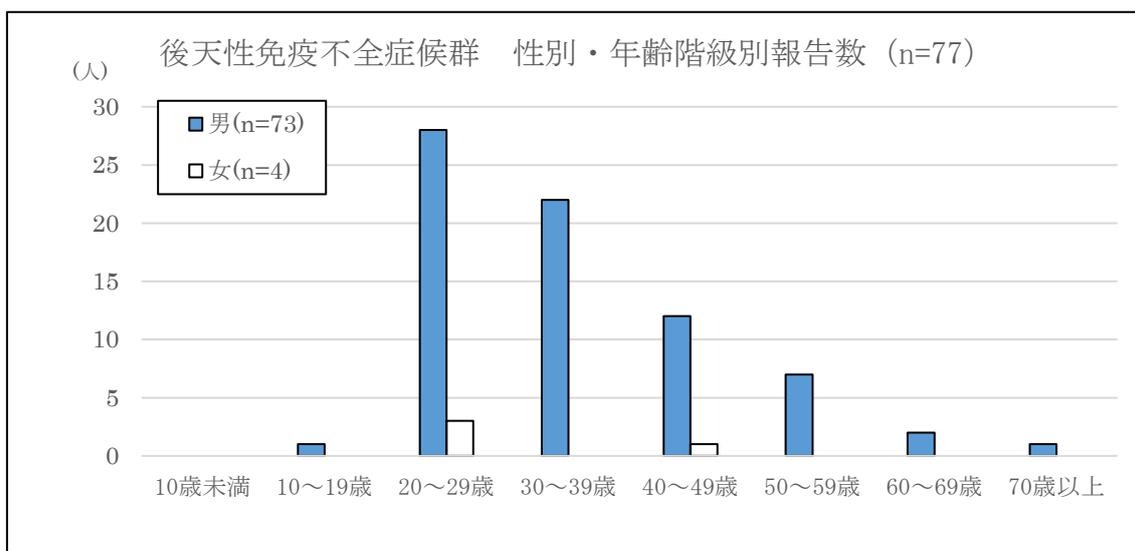
HIV感染者のうち指標疾患以外の有症者の13人の性別は男性12人、女性1人で、年齢階級別では20～29歳5人、30～39歳4人、40～49歳2人、50～59歳1人、60～69歳1人であった。

HIV感染者のうち無症候性キャリアの51人の性別は男性49人、女性2人で、年齢階級別では、10～19歳1人、20～29歳22人、30～39歳18人、40～49歳7人、50～59歳3人であった。

推定感染地は国内60人、国外4人、不明13人であった。国外感染例4人の推定感染国別ではインドネシア2人、タイ、ベトナム各1人であった。

推定感染経路が性的接触69人、不明は8人であった。性的接触は同性間50人、異性間9人、同性間及び異性間2人、性別不明8人であった。





#### ケ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

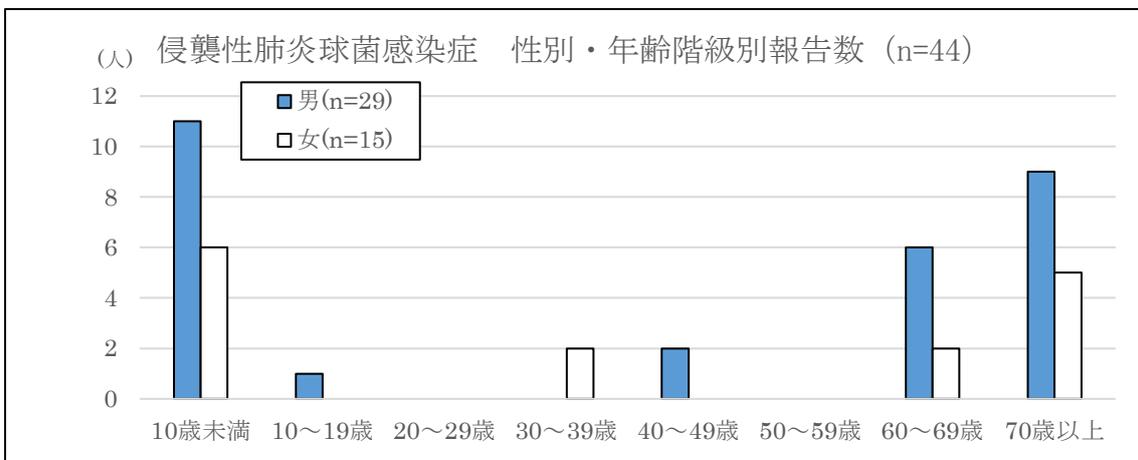
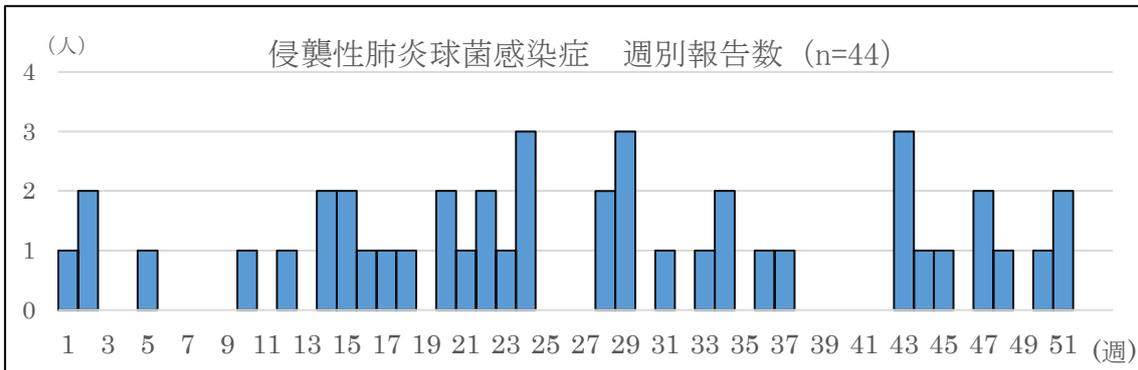
2021年は8人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別では20～29歳1人、40～49歳1人、50～59歳3人、60～69歳1人、70歳以上2人であった。

推定感染地は国内6人、不明2人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染2人、その他1人、不明5人であった。

#### コ 侵襲性肺炎球菌感染症

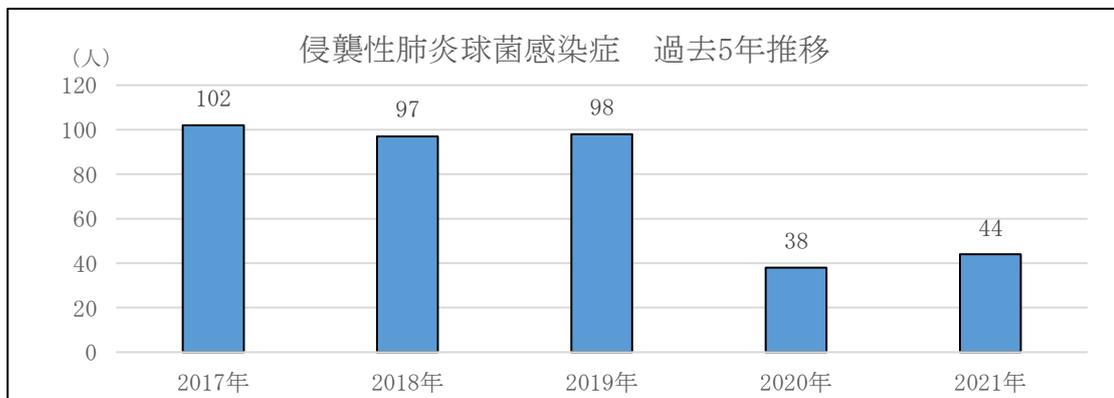
2021年は44人の報告があった。性別は男性29人、女性15人であった。年齢階級別では10歳未満17人、10～19歳1人、30～39歳2人、40～49歳2人、60～69歳8人、70歳以上14人であった。

推定感染地は国内42人、不明2名で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染13人、接触感染1人、その他3人、不明27人であった。ワクチン接種歴は4回接種13人、3回接種3人、2回接種1人、1回接種1人、接種なし9人、不明17人であった。



年齢階級別・ワクチン接種歴 (n=44)

	4回接種	3回接種	2回接種	1回接種	接種なし	不明	合計
5歳未満	13	3	1				17
5～9歳							0
10～64歳					1	7	8
65歳以上				1	8	10	19
合計	13	3	1	1	9	17	44



## サ 水痘(入院例に限る)

2021年は6人の報告があった。性別は男性3人、女性3人で、年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳2人、40～49歳1人、50～59歳1人、70歳以上1人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経はすべて不明であった。ワクチン接種歴は接種なし3人、不明3人であった。

## シ 梅毒

2021年は650人の報告があった。2020年638人に比べ、やや増加した。

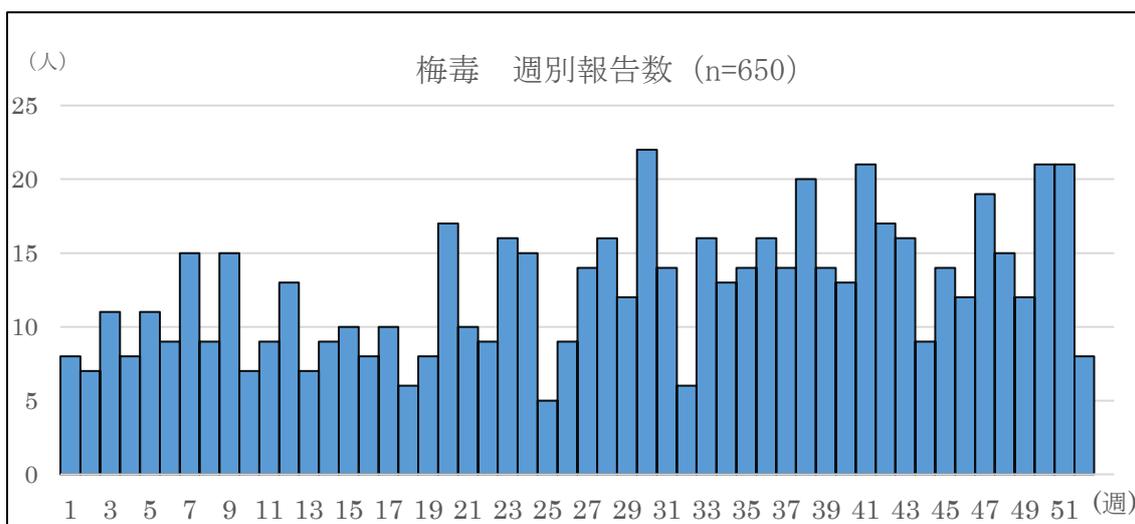
病型別では早期顕症梅毒Ⅰ期213人、早期顕症梅毒Ⅱ期192人、晩期顕症梅毒9人、先天梅毒3人、無症候233人であった。性別は男性331人、女性319人であった。年齢階級別では10歳未満3人、10～19歳26人、20～29歳299人、30～39歳144人、40～49歳80人、50～59歳60人、60～69歳24人、70歳以上14人であった。女性319人中、20～29歳が212人で66.5%を占めた。

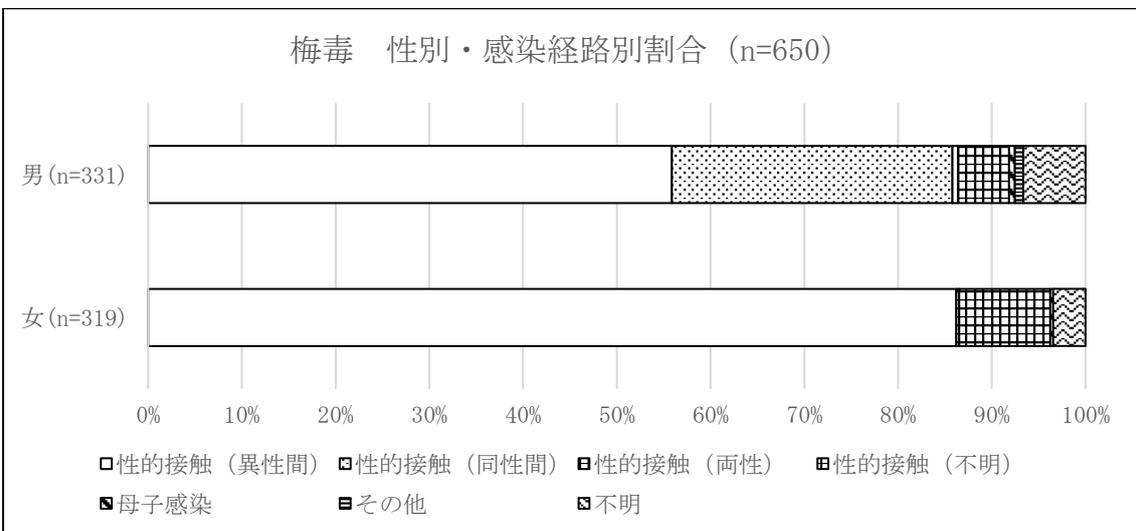
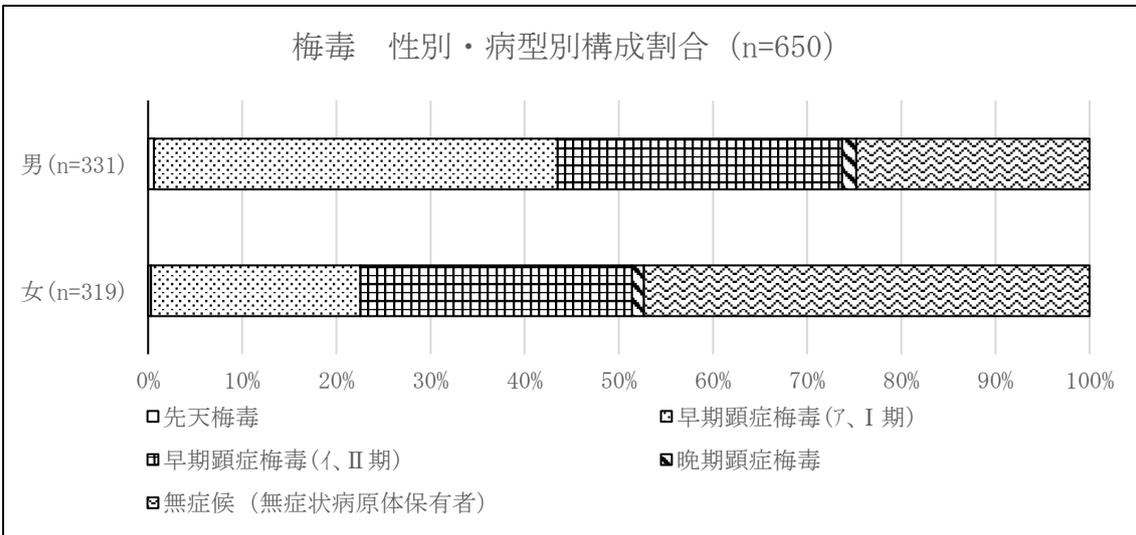
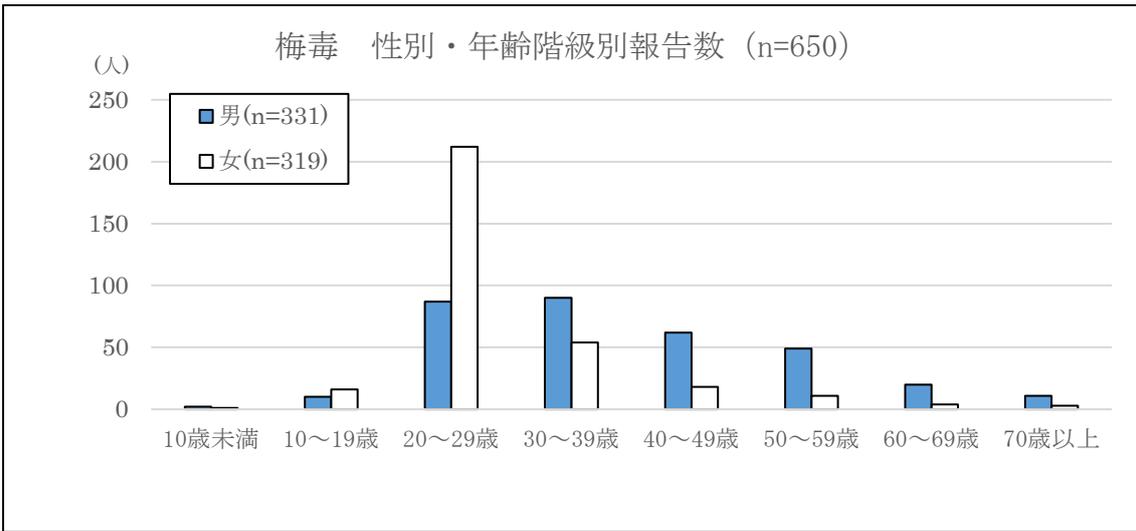
推定感染地は国内605人、国外(タイ)1人、不明44人であった。

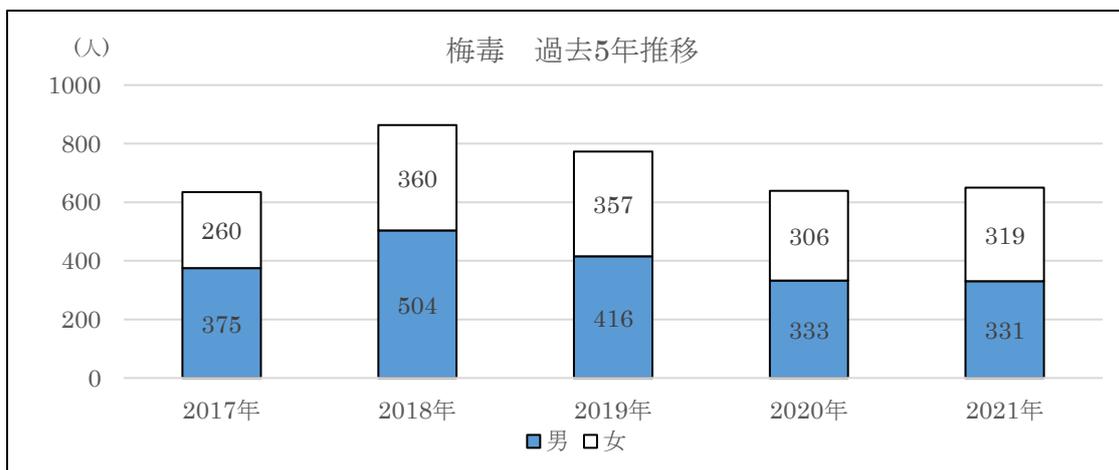
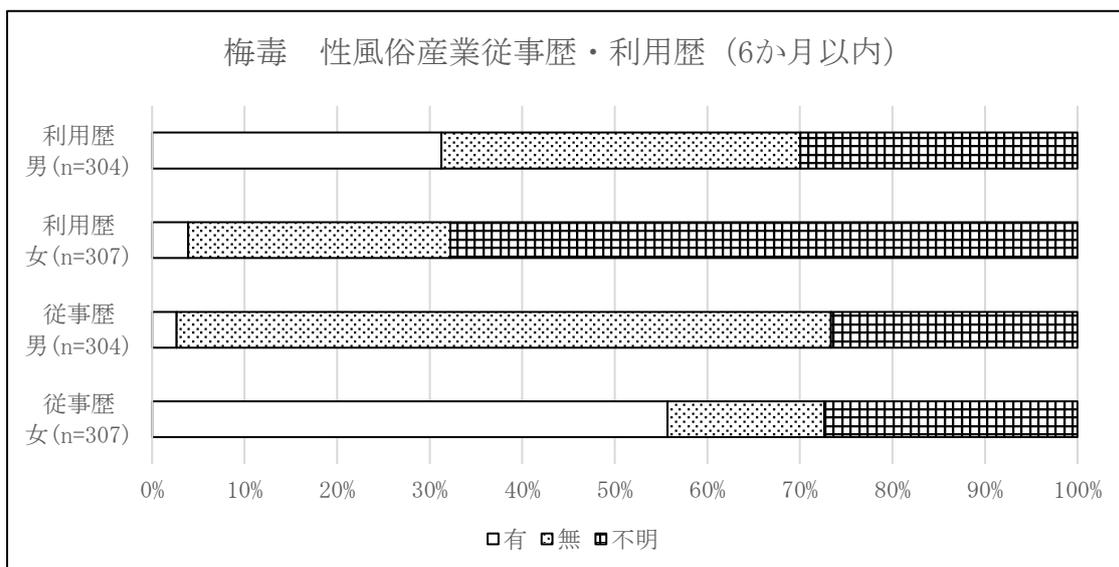
推定感染経路は性的接触611人(異性間460人、同性間100人、異性間及び同性間2人、性別不明49人)、母子感染3人、その他3人、不明33人であった。

また、2019年1月より発生届の内容に性風俗従事歴・利用歴等の項目が新たに加わった。性風俗産業従事歴(直近6か月以内)有が179人、従事歴無が267人、従事歴不明は165人であった。性風俗産業利用歴(直近6か月以内)有が107人、利用歴無が205人、利用歴不明は299人であった。

妊娠の有無について、女性319人のうち有24人(7.5%)、無275人(86.2%)、不明20人(6.3%)であった。HIV感染症合併の有無について、有47人(7.2%)、無264人(40.6%)、不明339人(52.2%)であった。過去の治療歴について、1年より前が62人(9.5%)、1年以内が27人(4.2%)、無502人(77.2%)、不明59人(9.1%)であった。







### ス 播種性クリプトコックス症

2021年は3人の報告があった。性別は男性9人、1人女性2人、年齢階級別はすべて70歳以上であった。推定感染地は国内2人、不明1人であった。推定感染原因は免疫不全2人、不明1人であった。

### セ バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

2021年は10人の報告があった。性別は男性9人、女性1人、年齢階級別では60～69歳2人、70歳以上8人であった。

菌種はすべて *Enterococcus faecium* で、耐性遺伝子は *vanA* が9人、*vanB* が1人であった。推定感染地は国内9人、不明1人であった。推定感染経路は接触感染1人、その他3人、不明6人であった。

## ソ 百日咳

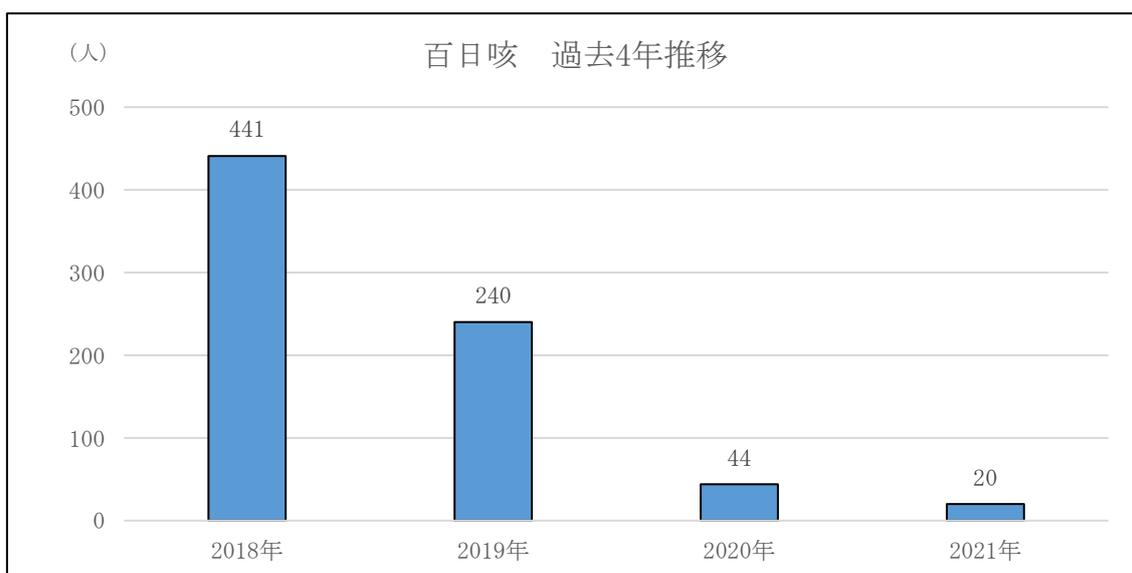
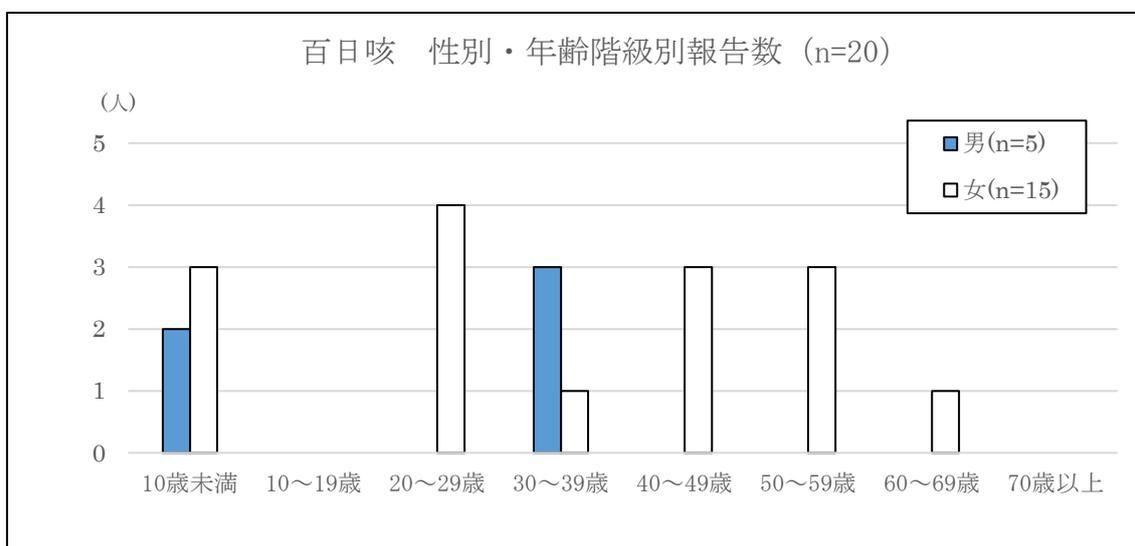
2021年は20人の報告があった。昨年44人に比べ約半分に減少している。

性別は男性5人、女性15人で、年齢階級別では10歳未満5人、20～29歳4人、30～39歳4人、40～49歳3人、50～59歳3人、60～69歳1人であった。0～14歳までの小児患者報告数は5人で、全報告数の25%を占めた。

百日咳含有ワクチン接種歴別では、4回接種3人、3回接種3人、2回接種1人であった。

診断方法は、血清抗体価検査による診断が14人と最多で、鼻咽頭拭い液検体からのイムノクロマト法による病原体抗原の検出、ペア血清で抗体価の有意上昇・抗体陽転、臨床決定がそれぞれ2人であった。

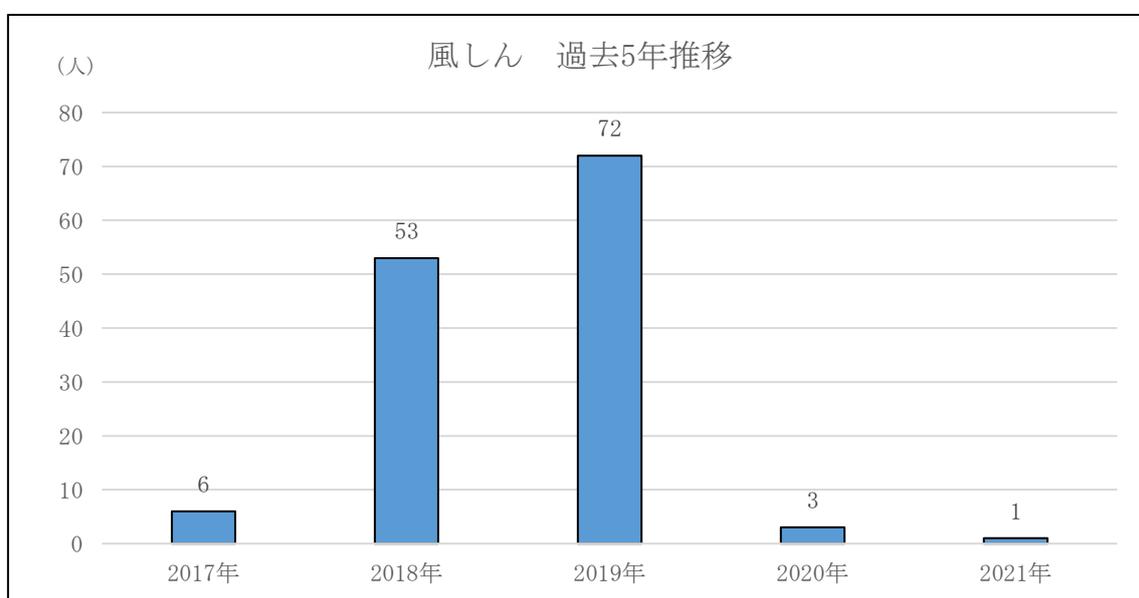
推定感染地は国内12人、不明8人であった。



## タ 風しん

風しんは法令および予防指針の改正により、2018年1月1日以降、医師は風しんと臨床診断した時点で直ちに届出を行うこと、原則として全例にウイルス遺伝子検査を実施すること、風しん患者が1例でも発生した場合には積極的疫学調査を行うことが求められるようになった。「風しんに関する特定感染症予防指針（厚生労働省告示第百二十二号：平成26年3月28日）」では、「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、令和2年度までに風疹の排除を達成すること」を目標としている。

2021年は1人の報告があり、検査診断例であった。性別は男性で、年齢階級別では60～69歳、血清IgM抗体の検出であった。風しん含有ワクチン接種歴は、2回接種で推定感染地は不明であった。



## チ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

クリプトスポリジウム症、ジアルジア症、侵襲性髄膜炎菌感染症、先天性風しん症候群（CRS）、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症

## (6) 新型コロナウイルス等感染症

### ア 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは令和元年12月に中華人民共和国湖北省武漢市において確認された、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属による急性呼吸器症候群である。

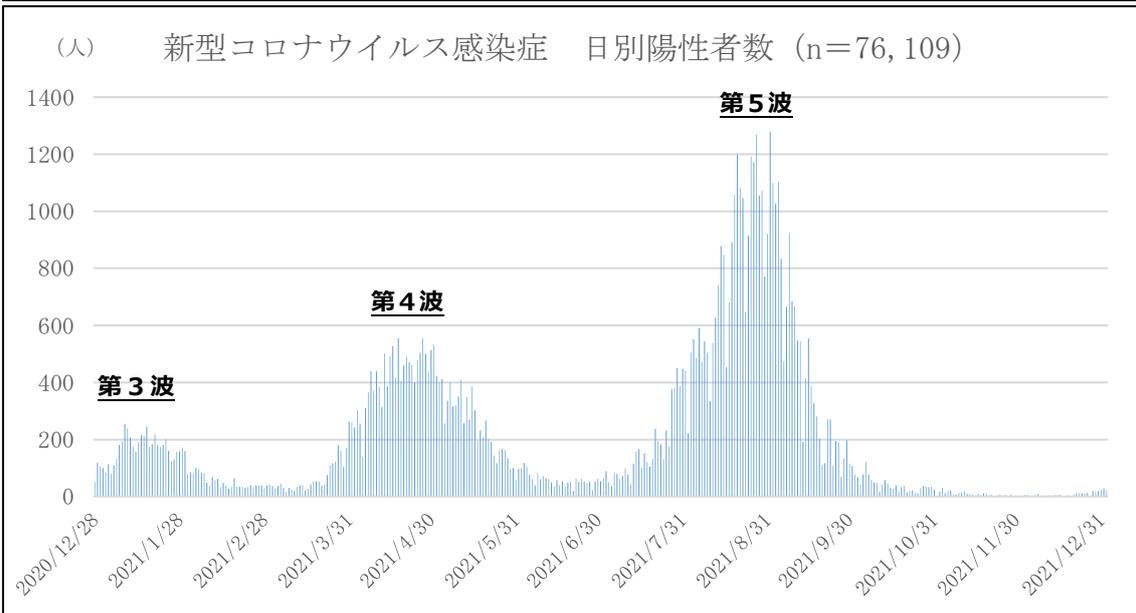
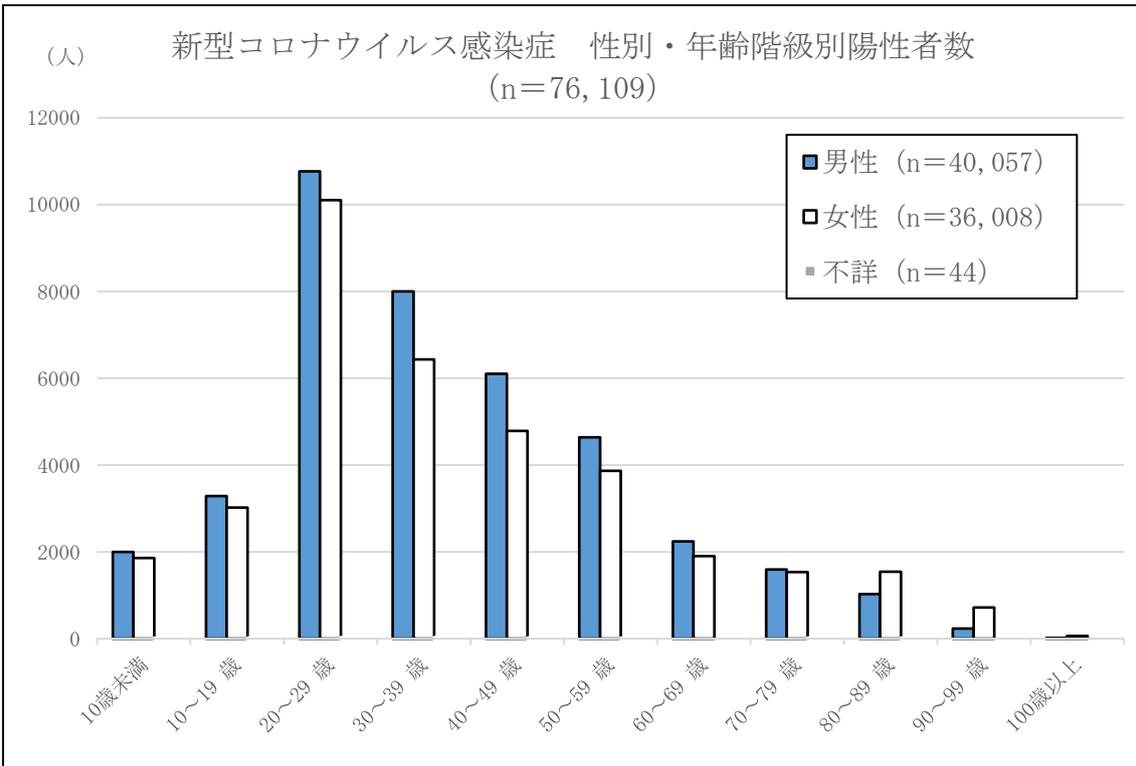
令和元年12月に確認されて以降、令和2年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあると表明され、世界的に感染地域が拡大している。

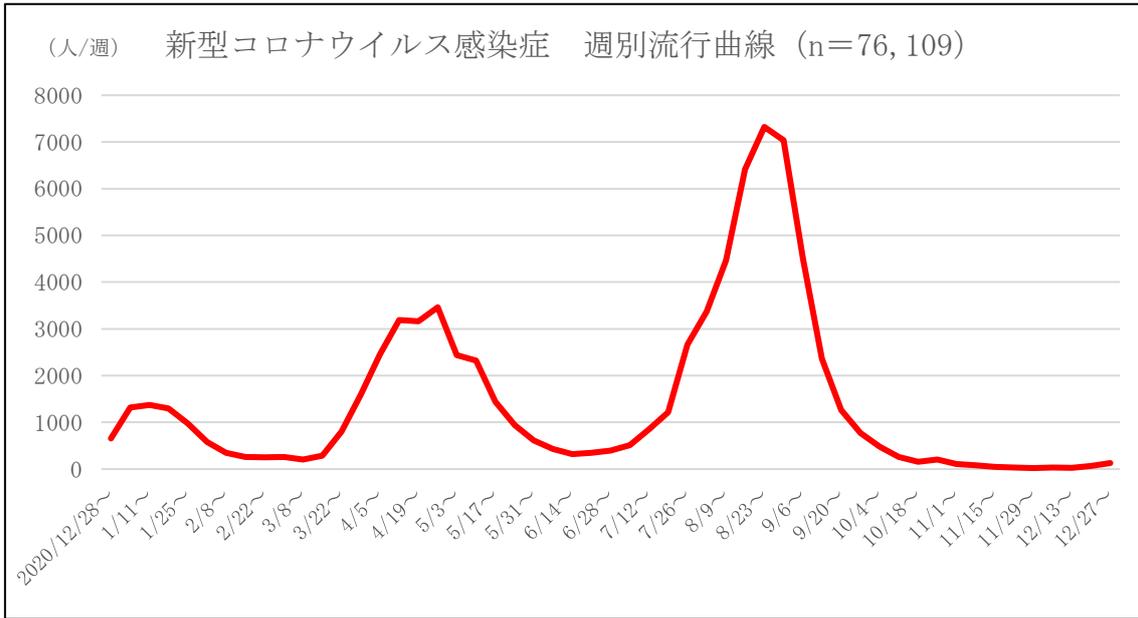
主な感染経路はエアロゾル感染・飛沫感染・接触感染である。臨床的な特徴として潜伏期間は1～14日（多くは5～6日）であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状を呈するほか、頭痛、下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害等が生じる場合がある。発症者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性が高くなる。

令和2年1月28日に感染症法に基づく指定感染症に指定されたのち、期限の定めなく必要な対策を講じられるように令和3年2月3日に新型インフルエンザ等感染症として法的な位置付けが変更された。

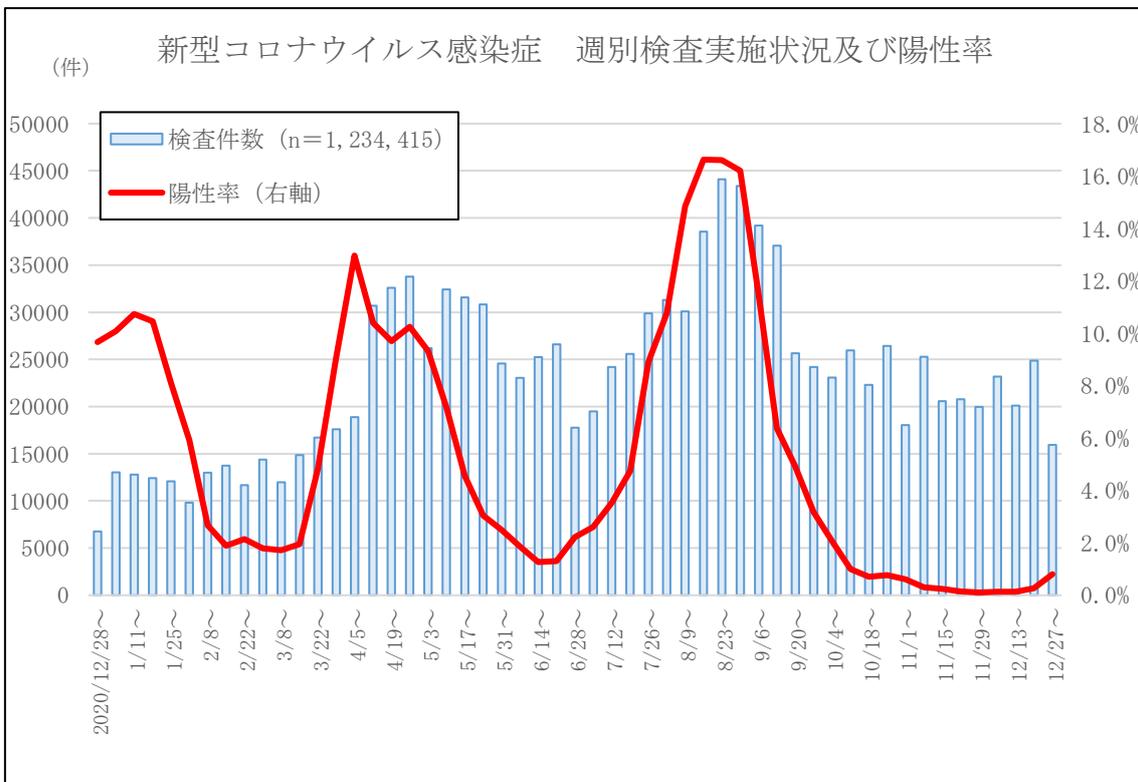
2021年の陽性者数は76,109人で、一日あたりの最大報告数は1,278名（大阪市報道発表資料より）であった。性別では、男性40,057人、女性36,008人、不詳44人で男性が女性を上回り、年齢別では10歳未満3,853人、10～19歳6,310人、20～29歳20,891人、30～39歳14,449人、40～49歳10,889人、50～59歳8,505人、60～69歳4,141人、70～79歳3,124人、80～89歳2,568人、90～99歳954人、100歳以上73人、不詳352人であり、20～29歳が最多で全体の27.4%を占めた。

なお、大阪府では、2020年10月10日から2021年2月28日を「第3波」、3月1日から6月20日を「第4波」、6月21日から12月16日を「第5波」、12月17日から2022年6月24日を「第6波」としている。





年間の検査実施件数は 1,234,415 件で、一日あたりの最大検査数は 8,699 件であった。陽性率は年間平均で 6.2%、一日あたりの最大陽性率は 43.1%であった。



年間の死亡者数は 1,018 人で、一日あたりの最大死亡者数は 22 人であった。

年齢別では10歳未満0人、10～19歳2人、20～29歳1人、30～39歳5人、40～49歳10人、50～59歳43人、60～69歳79人、70～79歳228人、80～89歳397人、90～99歳220人、100歳以上22人、不詳11人であり、陽性者に占める死亡者の割合（致死率）は、60歳未満1.0%未満、60～69歳1.9%、70～79歳7.3%、80～89歳15.5%、90～99歳23.1%、100歳以上30.1%となった。

